

授業科目名	コミュニケーション実践	科目コード	2503018		
開講クラス	動物健康管理学科	コース	動物園・水族館・ドッグ インストラクターコース	学 年	1 年
担当教員	改井 宣隆				
	実務経験教員 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) 実務経験内容 前職で地元放送局において、約 10 年間ラジオパーソナリティやナレーターを経験。「話す・聞く」といったコミュニケーションの基本について経験を基にして教えていく。				
開講時期	前期・後期・ <input checked="" type="checkbox"/> 通年・特別講義・その他		授業コマ数	62 時間	
	<input checked="" type="checkbox"/> 必須 ・ 選 択 ・ 選択必須		単 位 数	2 単位	
使 用 テキスト1	書 名	コミュニケーション検定初級公式ガイドブック&問題集			
	著 者	サーティファイコミュニケーション能力認定委員会			
	出版社	サーティファイ			
使 用 テキスト2	書 名				
	著 者				
	出版社				
参考図書					
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ 実験 ・ その他 ()				
<p><授業の目的・目標></p> <p>動物業界も接客業である。接客のためには「コミュニケーション力」は必須となります。最近ではコミュニケーション能力の少ない学生も多く、コミュニケーション力を少しでもつける授業を展開する。</p>					
<p><授業の概要・授業方針></p> <p>コミュニケーション力をつけるためには何が必要か。座学を中心に学生同士でのワークショップなども展開する。</p>					
<p><成績基準・評価基準></p> <p>前期と後期に優・良・可・不可の成績基準を設定する。前期の評価基準は筆記試験によるものとし、本科目の出席率が80%以上なければ本試験が受験できない。本試験における点数が80～100点を優、70～79点を良、60～69点を可とし、60点未満は追試とする。また、出席率が80%未満の場合も追試となり、追試においては60～100点を可とする。追試にて60点未満の場合は不可となる。前期は定期試験と出席での評価をする。後期は「コミュニケーション検定 初級」の検定試験を実施しその点数及び結果を評価とする。</p>					
<p><使用問題集・注意事項></p> <p>ウィネット コミュニケーション検定 初級対策テキスト</p>					
<p><授業時間外に必要な学修内容、関連科目、他></p>					

授業科目名		コミュニケーション実践	
2H/回	授 業 内 容	備 考	
1	自己紹介の方法・効果的な自己紹介とは		
2	自己紹介		
3	コミュニケーションを考える		
4	聞く力 目的に即して聞く		
5	傾聴・質問する。		
6	話す力 目的を意識する		
7	話を組み立てる		
8	ことばを選び抜く		
9	表現・伝達する		
10	正しい日本語で話そう（現在の「日本語」を考える）		
11	正しい日本語で話そう（正しい言葉遣い。正しい敬語）		
12	効果的な話し方を身につけよう（効果的に話す・効果的な話の方法）		
13	きれいな発声・発音を身につけよう（自分の話し方・きれいな発声、発音を身につけよう）		
14	ニュース原稿を読んでみよう		
15	効果的な話し方を身につけよう（効果的な話の構成）		
16	前期定期テスト対策		
17	来客対応		
18	電話対応		
19	アポイントメント・訪問・挨拶		
20	情報共有の重要性		
21	チーム・コミュニケーション		
22	接客・営業		
23	クレーム対応		
24	会議・取材・ヒアリング		
25	面接		
26	あいさつとTPO・一般会話力（問題集）		
27	検定試験模擬問題		
28	検定試験模擬問題		
29	検定試験模擬問題		
30	検定試験模擬問題		
31	検定試験模擬問題		